



2023年(令和5年)11月30日
明石市立二見北小学校
学校だより 第486号

「 声の力・言葉の力 」

教頭 梅本 欣司

朝夕の寒さが厳しくなってきました。学校では、インフルエンザは小康状態ですが、アデノウィルスなど多種多様な病原菌の影響で、欠席0という学級は少ない状況です。

さて、先日の音楽会では実に4年ぶりに合唱を披露することができました。コロナ禍の影響で音楽の学習では声出しや息出しを控えていたためです。最近、スポーツの応援等も声出しが解禁となり、応援を受ける側もする側も共に活気に満ちている様子が見られます。今回の音楽会においても、体育館中に子どもたちの澄んだ歌声が響き渡り、声を出している子どもたちは気持ちよさそうに歌い、ご来校の方々も温かな眼差しで耳を澄まし、子どもたちの歌声を堪能されていたようです。

この時、私は、「子どもたちの歌っていいな」と改めて感じると共に、同じ曲なのにこれまで聴いたときは別の感情を抱き、考えさせられた曲がありました。それは、1年生の『小さな世界』でした。コロナ禍以前に聴いていた1年生が歌う『小さな世界』は、歌っている姿を見て、「楽しそうかわいいな」という感想でしかありませんでした。ところが、今回の1年生が歌う『小さな世界』を聴いたときはとても複雑な感情が湧いてきたのです。その時の思いはおおよそ以下の通りです。「世界では、なぜこんなに人々の暮らしは違うのだろう。同じ子どもでも悲しくて歌も歌えない子もいれば、楽しそうに歌える子もいる。戦争や災害などによる災難など、「何もないこと」がどれほど素晴らしいことなのだろうか。」といった思いです。このことをシンガーソングライターの知人に話すと、「それはきっと、同じ歌を聴いても、その時の世相や聴く人の心理状態などが大きく影響するからではないか」という考えを聞きました。確かにその通り、人は同じものを見たり聞いたりしても感じ方、とらえ方は千差万別と言えるでしょう。

以下が『小さな世界』の歌詞です。

「世界中どこだって 笑いあり涙あり みんなそれぞれ助け合う 小さな世界

世界はせまい 世界は同じ 世界は丸い ただ一つ」

「世界中だれだって 微笑めば仲よしさ みんな輪になり手をつなごう 小さな世界

世界はせまい 世界は同じ 世界は丸い ただ一つ」

皆様、この歌詞をどのように感じられましたか。今後も学校では、子どもたちに、物事をしっかりと見たり、聞いたりできる豊かな感性や、グローバルな視野を有した世界市民としての感覚が身に付くような教育活動が行えるように努力してまいります。

今月の予定

日	曜	行 事
5	火	きらきらの会 (1年・6年・わかば) Fタイム (サークル) 1～4年 14時20分下校
7	木	きらきらの会 (2年) 2年生まち探検予備日 (午前中)
11	月	教育相談日
12	火	きらきらの会 (3年)
14	木	きらきらの会 (4年) 放送音読 (2年)
15	金	SC来校日 交通安全教室 子ども安全の日 ベルマーク回収日 放送音読 (4年)
18	月	教育相談日 放送音読 (1年)
19	火	きらきらの会 (5年) 学期末大掃除 放送音読 (6年)
20	水	学期末大掃除
21	木	給食最終日 13時40分下校
22	金	終業式 11時40分下校
25	月	冬季休業日
1月の主な行事予定		9日：始業式 地区別一斉下校 (11:40) 10日：給食開始日 席書会 13:40下校 11日：13:40下校 16日：Fタイム (サークル) 17日：防災教育・避難訓練 23日：代表委員会 30日：Fタイム (クラブ)

北っ子音楽会～2023～

「届けよう!北っ子みんなのきせきのメロディー」

音楽会当日は、子どもたちの演奏を鑑賞していただきありがとうございました。2学期に入ってから音楽の授業では、どの学年も音楽会に演奏する曲の練習を進めてきました。これまで感染症拡大防止のため、音楽の学習活動が制限されたことも多かったのですが、今年度は歌唱と、鍵盤ハーモニカやリコーダーを加えた合奏にしっかり取り組みました。そして、子どもたちは演奏が一つになるよう本番に向けて懸命に練習を重ねてきました。途中、インフルエンザの流行もあり、練習が思うように出来ない学年もありましたが、当日は、子どもたちのひたむきな眼差しや、学年で創り上げたメロディーをお届けできたと思います。音楽会で学んだことを、今後の学校生活に生かせるようにしたいと思います。